

「かくし味の効いたおにぎり」  
ぼくの通う小学校にはおむすび弁当の日が  
あります。おがずはもちろん、中に具を入れ  
てはいけないルールです。去年の秋までは、  
母がきれいなおにぎりを二つ作ってくれてい  
ました。ぴかぴかに光った塩おにぎりです。  
わが家のお米は、おじいちゃんが作ります。  
大きくなつたので、去年の田植えで初めて手  
伝いをしました。ぼくのデビュはパレット  
運びでした。種がまかれたパレットをていね

いに運び、田んぼに並べました。

秋になり、香りのいい新米が届きました。  
もちろん、おじいちゃんの作ったお米だから  
美味しいに決まっています。

「今年はお手伝いしたから、特においしい  
でしょうね、母の言葉で、いいことを思いつ  
きました。次のおにぎり弁当を自分で作るこ  
とです。友達にじまんしたかったです。

おにぎり弁当の朝、ママ、ごはんたけて  
るし、そう言いながら、キッチンにかけこみま

した。母は、にっこり笑って準備OKよ  
 っ腕前ははいげんしましようか」と言いにぎ  
 り方を教えてくれました。まず、手をきれい  
 に洗い、手に塩をすりこみます。そこに熱々  
 のごはんをのせてにぎります。っあっあっあ  
 っ手にのったお米は想像以上に熱かったで  
 す。っママは熱くないのっそう聞いたぼくに  
 っあっいからおいしくなるのよ」と涼しい顔  
 で答えてくれました。っママっっっすぎいなし  
 思わず声に出しました。

母は、簡単にきれいな形のおにぎりを作り  
 ます。だけど、ぼくがにぎると、まったくう  
 まくいきません。手にごはん粒はつくし、そ  
 もそも三角のおにぎりにならないのです。悪  
 戦くとうして、ごうにか形が悪く小ぶりのお  
 にぎりができました。母は、笑いながらっど  
 っちのおにぎり持って行くしとたずねました。  
 もちろん、っぼくのっと言いました。  
 待ちに待ったお昼の時間です。ぼくは、自  
 信をもって弁当のふたを開けました。友達に

も見せました。が、残念なことに反応は良くありません。ぼくは、初めてのおにぎりを手に取り、大きく口を開けがぶりつきました。にぎると、ぼろぼろとこわれまじったが、塩味が効いてとてもおいしかった。何より、自分<sup>が</sup>初めて手伝ったお米、初めて作ったおにぎりは、初めて自分<sup>が</sup>したし、かくし味が効いた最高のおにぎりでした。ただでもおいしーい、おじいちゃんのお米が、いつもの何倍も何倍もおいしく感じました。